和光市協働事業審査委員会　会議録（要点記録）

日　時：　平成 25 年 10 月 31 日（木）　13 時 20 分～16 時 00 分
場　所：　和光市庁舎６階　602 会議室
出席者：　協働事業審査委員
【常任委員】
第１号委員（知識経験）　平　修久（聖学院大学コミュニティ政策学科長）
第２号委員（公募市民）　関口　泰典
鈴木　研太
第３号委員（市職員）　星野　賢（委員長・市民環境部長）
石田　清（企画部長）
【臨時委員】
・市民提案①　共生社会における障害者の社会参加と権利擁護の啓発事業の推進
星野　裕司（社会福祉課）
・市民提案②　わこう郷土かるた（わこうっちかるた）作成事業
冨岡　敏光（生涯学習課）
・市民提案③　和光市湧水環境調査
丸山　洋司（環境課課長補佐）（課長の代理として出席）
欠席者：　谷本　有美子（公益社団法人神奈川県地方自治研究センター研究員）
事務局：　市民活動推進課　深野・渡邉・新坂・大竹
傍聴者数：13 名

１　公開プレゼンテーション・ヒアリングの実施について

事務局より説明

・市民提案３件の応募があった。
・10 月４日に実施した第１次審査において、和光市協働事業提案制度実施要綱第４条に定める対象事業としての要件確認を行った結果、３提案とも第二次審査へ移行することとなった。
・提案団体によるプレゼンテーション及びヒアリングの後に、採択事業を決めるための審査会を行なう。
・プレゼンテーションは 15 分、ヒアリングは１０分間とする。
・第１次審査において、審査委員から出された質問事項については提案団体に通知してあり、プレゼンテーションに入れられるようであれば入れるよう依頼している。プレゼンテーションの中に入っていない事項については、その後のヒアリングの中で確認願いたい。
・「協働事業提案採点表」を用いて審査を行う。採点は審査項目ごとに３点満点とする。
・審査項目は「協働事業審査要領」3⑴の１０項目　⑴事業の必要性　⑵公益性・市民サービスの向上　⑶具体性　⑷継続性・発展性　⑸適正な予算　⑹協働の必要性　⑺役割分担の妥当性　⑻協働の効果　⑼事業実施能力　⑽事業に対する熱意　とする。
・採択事業の決定は、原則として、各委員の採点結果を集計し、採択候補事業を選定する。選定に当たっては、提案された事業を所管する課所等からの意見についても考慮し決定する。ただし、協働事業審査要領に基づき、委員の平均点が２０点に満たない提案は、採択しないものとする。
・採択事業は、審議会の結果を受けて、後日市長が決定する。

２　協働事業提案に係る公開プレゼンテーション・ヒアリング

市民提案①　共生社会における障害者の社会参加と権利擁護の啓発事業の推進

プレゼンテーション：チャレンジド団体連絡協議会

■プレゼンテーション（第１次審査時に審査委員から出された質問事項について、回答を入れ込み説明している部分のみ抜粋）

□提案した個別事業６件のうち、「かがやくチャレンジド合同展示会の開催」、「障害福祉講演会の開催」、「チャレンジド広報誌『ちゃれんじどの声』の発行」の３件に関しては既存事業である。この事業は、障害者福祉には欠かせない事業であるため、市と当団体の協働事業として行ない、ますますスパイラルアップをして行きたい。

□提案した個別事業のうち、「あいさつ運動および市内練り歩き」において、飲み物代を計上した。障害者は、健常者と比べ体力が無い場合が多いため、水分の補給が必要なケースが多く考えられる。練り歩きの後の反省会で、参加者に飲み物を配る必要があると考える。

□提案した個別事業のうち、「障害福祉に関する相談会の開催」について説明する。現在、相談会は市の事業として実施しているが、行政への相談だけでは満足できない相談者もいることが予想される。協働事業としてこの事業を実施する際には、「ちょっと聞いて、相談会」等と名付け、障害者本人やその家族のちょっと気になることを気軽に相談に乗る。相談内容は、市に報告する。

□提案した個別事業のうち、「チャレンジド広報誌『ちゃれんじどの声』の発行」は、例年１回の発送であるが、今回は協働事業により２回の発送を考えている。予算計画書では、例年より増える１回分の郵送料を計上した。しかし、市が障害者手帳の所持者に対し通知文等を郵送する際に同封できればこの予算は削減できる。

■ヒアリング

【　平　】個別事業のうち、就労体験について質問する。受入れ先企業をどのように探すのか。また、チャレンジドとのマッチング方法を教えて欲しい。

【発表者】受入れ先企業は募集により探したい。市に協力してもらい、行ないたい。

【委員長】提案書に、この事業の対象者は約１万人いるとの記載がある。１万人の内訳を教えて欲しい。

【発表者】和光市内に障害者手帳を持っている市民が約２，１６０名いる。その他に、障害者手帳を持っていない市民を、国のデータから計算し、当団体独自に予測した。まず、厚生労働省のデータによれば、全国民に対する身体障害者の割合は６%とのことである。和光市に当てはめると、４，１００名程の障害者がいることが予測される。また、１世帯あたりの人数が 2.6 名というデータを考えると、和光市内の障害者及びその家族は、１万人以上いることが予測される。ただしこの中には、福祉施設に居住している障害者もいることが予測されるので、施設に住んでいる障害者とそのスタッフは除外して考え、今回の提案書では、事業対象者は障害者及びその同居家族、合計１万人とした。

【委員長】提案書に記載されている当該事業の役割分担について、市の担当するものに「事業企画書の作成」とある。この企画書とは何に対する企画のことか。

【発表者】この事業の企画書のことである。企画書の素案を当団体が作成し、それを基に担当課と整合性を図りながら、共同で完成できれば、と考えている。

【委員長】チャレンジド団体連絡協議会のメンバーは、仕事をしながら各構成団体でも精力的に活躍している人が多いと思う。採決された場合、今回提案した事業を実施し切ることは可能か。

【発表者】チャレンジド団体連絡協議会の委員は７名であるが、当団体が主催する事業等でも、各構

成団体や傘下団体のメンバーと一致団結し事業を遂行させている。今回提案した事業も問題なく完了することが出来る。

【石　田】予算計画書に、１日就労体験事業の報酬費が計上されている。これは、誰に支払うものか。

【発表者】この事業は、５名のチャレンジドが５箇所の企業にて就労体験することを想定している。この５名には、それぞれ１名ずつ支援員を付ける。この支援員への報酬費として計上した。支援員には、商工会への事前ヒアリング、チャレンジドの送迎、チャレンジドの生の声を報告書にし、提出をしてもらう。

【星　野】個別事業「障害福祉に関する相談会の開催」について質問したい。市も現在、相談事業を行なっているが、それを補足するような相談事業を行ない、相談内容を市へ報告するということか。

【発表者】その通りである。効果があれば、次年度以降この事業を広げて行きたい。

【　平　】障害者手帳を持っていない市民に、この活動を広めることは出来るか。

【発表者】昨年度広報わこう１２月号にて障害者関連の記事が表紙に記載され、大変効果があった。その様な機会があれば、また周知できる。

【鈴　木】広報わこうでこの活動を広く周知出来るということだと思うが、他に方法はあるか。

【発表者】現在、チャレンジド広報誌では、「チャレンジドの声」というコーナーにて毎回約８名の手記を掲載している。しかし、この８名の枠に投稿者が毎回 50 名程いるというのが現状である。多くのチャレンジドの声を、たくさんの人に聞いてもらうために、最低もう１度広報誌を発行したい。

市民提案②　わこう郷土かるた（わこうっちかるた）作成事業

プレゼンテーション：和光市商工会青年部

■ヒアリング

【関　口】事業終了後、かるたを売って欲しい等の要望があった場合、再版して販売することを想定しているか。

【発表者】この事業は、郷土愛や地域への関心を高めることを目的としている。つまり、販売目的とは考えていない。ただし、そのような要望が多くあった場合は、市と相談し、対応を考えたい。

【冨　岡】30 年前に作成されたかるたには、ささら獅子舞や大いちょう等が読み句として用いられた。この読み句をそのまま用い、30 年前には無かったもの（外環高速道路等）を新たに入れ込む想定か。

【発表者】前回のかるたの読み句を使用せず、全ての読み句を新しく作る予定でいる。

【鈴　木】かるたの配布は各小学校のクラスに１つと考えているか。

【発表者】本来なら市内の小学３年生全てに配布したいが、予算から考え厳しい。各学校１０セットずつ配布し、読み句と絵札が採用された８８名に１セットずつ配布したいと考えている。

【委員長】提案団体が商工会青年部ということで質問する。出来上がったかるたを、商工会としてまちの活性化に使うことを考えているか。

【発表者】このかるたは、販売目的とはしない。まちの活性化という面では、インターネット等に公開し、各家庭で印刷したものを厚紙に貼るとかるたとして使用できる、等の方法を考えている。

【　平　】アンケートの対象は誰か。小学校の担任教師等を対象に行なう必要もあるのではないか。

【発表者】そう考えている。

市民提案③　和光市湧水環境調査

プレゼンテーション：NPO 法人　和光・緑と湧き水の会

■ヒアリング

【鈴　木】予算計画書に、水質検査のサンプルが８個計上されている。市内全域の調査は可能か。

【発表者】市内全域の調査をすることは、この予算では厳しい。白子地区をモデルとして、調査を行ないたい。

【　平　】自治会等の地元住民との関わりを意識していれば、教えて欲しい。

【発表者】自治会等との関わりは、特に意識していない。当団体には、地元自治会の役員等が多くいるため、心配なく調査が行なえる。

【　平　】湧水を守るためには、地元住民の理解や協力が必要ではないか。

【発表者】その通りである。当団体が実施した過去の事業において、地元住民の理解や協力を得て、良い事業成果が得られた実績がある。また、当団体では井戸の所在全てを把握している訳ではないが、何箇所かを調査し、井戸が災害時利用に結びつくものかどうかを把握できればと考えている。

【石　田】市内全域の井戸を調査することは可能か。不可能の場合、理由をお教え願いたい。

【発表者】市内の井戸がどこにあるか明確でない上に、井戸の数等を考慮すると、１年間で調査することはできない。もしも市内全域の調査を行なうのであれば、市が主導して行なって欲しい。今回の事業が、市内全域の調査を行なうためのきっかけづくりになれば良いと考えている。

【丸　山】提案団体は、湧水を長年調査して来たが、近年量が減った等の現象は見られるか。

【発表者】特に見られない。外環高速道路が完成した際は、地下水の流れの分断を心配したが、特に問題無かった。

【石　田】市としては、この調査結果を基に、地域の人に対し、災害時に使える井戸の場所等を示したい。事業終了後に、例えば、自治会等が主催する防災の勉強会等に出席し、レクチャーしてもらうことは可能か。

【発表者】ぜひ、行ないたい。

３　採択候補事業について

＊20 点未満は採択しない

市民提案①　共生社会における障害者の社会参加と権利擁護の啓発事業の推進
＊20 点未満のため、採択しない。

合計点　114 点	
最終点（合計点を委員人数６人で割った点）	19.00 点

市民提案②　わこう郷土かるた（わこうっちかるた）作成事業
＊20 点以上のため、採択する。【候補順位　１位】

合計点　146 点	
最終点（合計点を委員人数６人で割った点）	24.33 点

市民提案③　和光市湧水環境調査

＊20 点以上のため、採択する。【候補順位　２位】

合計点　135 点	
最終点（合計点を委員人数６人で割った点）	22.50 点

＊採択事業は、審議会の結果を受けて、後日市長が決定する。